

福岡市で反迫害パレード 市民に脱党4億3千万人を伝える

福岡市で11月2日、法輪功学習者による反迫害パレードが行われ、多くの市民や観光客から支持を得た。学習者達はパレードを通じて、中国共産党（以下、中共）による法輪功への25年におよぶ迫害の停止を訴え、4億3千万人の中国人が党組織から脱退したことを伝えた。

大雨洪水警報が発令され、九州方面の新幹線が一時運休するなど、天候悪化が予想される中、パレード開始1時間前に警報が解除され、予定通り実施された。天国楽団の演奏に多くの人々が足を止め、法輪功について熱心に質問する姿が見られた。

台湾からの観光客の黄さんは「台湾ではどこでも法輪功を見かけるので、よく知っている。このような平和的な表現方法は素晴らしい」と評価した。また、83歳の



佐藤正子さんは「このような活動はとても大切。迫害は許されるべきではない」と支持を表明した。

イタリアからの観光客 ジャニ・アルヘプリさんは「迫害に立ち向かってこのようなパレードを行うことは

素晴らしい」と述べ、オーストラリアからのアリエットさんも「法輪功に対する迫害に反対し、自分にでき

ることをしたい」と話すなど、国際的な支持の声も上がった。

英国上院、法輪功への臓器収奪問題で立法強化へ

英国超党派上院議員のアルトン卿は11月5日、ロンドンの国会議事堂で「法輪功、中国の強制臓器摘出と英国への影響」をテーマとしたセミナーを主催した。中共による法輪功学習者からの強制臓器摘出问题に焦点を当て、立法による監督強化を表明した。

英国法輪大法仏学会のキャロライン代表によると、2024年前半9カ月で5000人以上の法輪功学習者が迫害を受け、87人が死亡、数千人が逮捕・判刑された。さらに英国内でも、法輪功学習者への監視や脅迫、チャイナタウンや大英博物館付近での暴力事件が発生している。

「人権侵害に対して明確な立場を取るべき」

アルトン卿は、「英国議会情報安全保障委員会」が中共の英国への浸透と脅威



■英国法輪大法学会がロンドンの国会議事堂で上院主催のセミナーを開催

を暴露する厳しい報告書を発表したことに言及。政府は中共の威嚇と宣伝手法に断固として反対し、中国の

人権侵害に対して明確な立場を取るべきと強調した。

労働党のマリー・リマー下院議員は2002年、英国人

の中国などへの商業的臓器移植旅行を阻止する法改正を推進。「中国への臓器移植旅行は法律で明確に禁止

され、問題発生時の追跡も可能となった」と述べた。

国際刑事法専門家のステーブソン弁護士は、西洋医学界が中国の医師の訓練や設備提供を通じて違法な臓器取引を助長している可能性を指摘。中国と協力関係にある医療機関へのデューデリジェンス実施と、中国医学界の国際的孤立化を提言した。

デービッド・マクス博士は、関係者への経済制裁実施や入国禁止、医学研修・学術交流の停止を提案。国連人権理事会や安全保障理事会を通じた圧力強化も呼びかけた。

また、英国国民保健サービス（NHS）の医師パターソン氏は、強制臓器摘出の識別をNHS職員の必須研修に組み込むことで、違法な臓器移植の予防と監視強化を図るべきと提言した。

インドの学校、法輪功を実践

毎年8月から10月はインドの祝祭シーズンで、国民が伝統的な信仰を祝う時期である。学生たちにとっても、課外活動に参加し、精神的な視野を広げる良い機会となっている。

インドの法輪功学習者（以下、学習者）たちは、ナグプールの15の学校で数千人の教職員と生徒たちに向けて、法輪功の紹介会を開催した。参加者たちは法輪功の真・善・忍の価値観に賛同を示し、多くの人々が法輪功の修煉は心身の健康に有益で、学生の集中力を高め、心を落ち着かせ、ストレスを緩和するのに役立つと述べた。

高校生が集中力と平静さを得る

8月16日、学習者たちはナグプールのアダルシャ・サンスカル・ヴィディヤラヤ高等学校（Adarsha Sanskar Vidyalaya and Junior



■足を組み功法を学ぶ生徒たち

College) を訪問し、校長の stjarta パシネさんの協力のもと、650人の生徒と20人の教師に法輪功を紹介した。教職員と生徒たちは5つの功法を学び、その体験を共有した。

10年生のバブナ・パワーさんは、煉功から大きな効果を実感したと話した。「とても穏やかな気持ちになりました」と語り、「本当に良いもので、学習にも役立っています」と付け加えた。

教師「法輪功は心身の健康に有益」

8月24日、学習者たちはスリニケタン・マディヤミク・ヴィディヤラヤ中学校（Sriniketan Madhyamik Vidyalaya）を訪問し、校長のパワナ・バウテさんから熱烈的な歓迎を受けた。

6年生のプレムクマール・ラナさんは、煉功後に体が軽くなったことに驚いた。「目が楽になり、体が軽くなって、疲れが全部消えました」と言った。

女子学生部長 毎日煉功がしたい

8月31日、学習者は聖パウロ学校CBSE（St. Paul School

CBSE）で1,500人の生徒と100人以上の教職員に法輪功を紹介した。学校創設者のラジャバウ・タクサレ博士は資料を熱心に読み、法輪功の真・善・忍という修煉原則に深い印象を受けた。

女性校長のサンギータ・フィルケさんは、学習者たちに毎週来てもらって生徒たちの煉功を指導してほしいと願った。「瞑想は非常に効果的で、生徒たちの学習への集中力に重要な役割を果たしています。学校はいつでも皆さんを歓迎します」と語った。

法輪功についての情報は、女子学生部長のテジャスウィ・ジャンブルカルさんに強い印象を与えた。「精神的にとっても落ち着きました」「これは私の学習に役立つので、毎日煉功をしたいです」と話した。

生徒たちが心の平安を見出す

9月2日、学習者はウィングス英語高等学校（Wings English Higher School）の300人の生徒に5つの功法を実演した。生徒たちは煉功が思考を整理し、ストレスを軽減するのに役立つことに気づいた。

5年生のアモル・ククレイアさんは、毎日煉功したいと願っている。同じく5年生のカラクさんは、法輪功が健康に良いと考え、「瞑想は素晴らしいです。朝の頭痛が消えて、今はとても幸せです」と語った。

宇部まつりでパレード 天国楽団が参加

「彫刻のまち」と呼ばれる美しい沿岸都市、山口県宇部市で11月3日、市制記念を祝う宇部祭りが催された。70年以上もの歴史があり、毎年10万人以上の来場者で賑わう。

見どころの常盤通りでのパレードでは今年、31団体から約2300人が参加した。法輪功学習者による天国楽団は2回目の参加となり、力強い演奏は多くの観客を引きつけた。

昨年も宇部まつりで天国楽団の演奏を見たという岩崎さんは「動きが揃っていて素晴らしかったし、音色も良かったです。他の団体のパレードはあまり見てなかったんですけども、天国楽団の演奏の音に引き込まれて、聞き入っていました」と語った。

パレードでの演奏を楽しんだ市民に話を伺った。



下見さんは「天国楽団の演奏を聴くのは初めてです。年齢が違う人たちが協力して楽団を作っているのが、とても良いと思いました」と語った。

天国楽団は力強い演奏とともに、法輪功迫害に関する実態についても伝えている。

えんぴつ画家の岡本さんは、法輪功が迫害されている実態を聞いて「世界平和のた

めに人権を大切にすることが必要です。平和であること、人権を守ること、これは世界の普遍的な真理です。頑張ってください」と語った。

南さんは、中国で命の危険を顧みずに法輪功の無実を訴える学習者について「とても難しいことですが、これからも頑張ってください」と励ました。

アニメのキャラクターに扮してパレードに参加した千穂さんは「皆さんはきっと多くの困難を乗り越えてきたことと思います。これからも活動を広めていくために、頑張ってください」と語った。

久保崎さんは、法輪功が迫害されている実態を聞き「自分の目で見て、調べて、この迫害という問題にしっかりと向き合いたい」と語り、資料を持ち帰った。

装飾された車に乗ってパレードに参加した神尾さんは「希望を捨てないでください。これからも頑張ってください」と語った。

法輪功の修煉を始めて4年になる日本人学習者、矢野さんの手記をご紹介します。矢野さんはコロナ禍をきっかけに法輪功と出会い、心性の向上と生活の改善を実現した体験を綴っています。

* * *

コロナ禍による在宅時間の増加で、様々なメディアのニュースを見るようになりました。そこで法輪功の存在

と、その学習者への迫害について知り、他人事として看過できないと感じました。『法輪功』という本の「心性を修

煉する」という章に感銘を受け、これが修煉の第一歩となりました。

法輪功を始める前は、飲酒、喫煙、昼夜逆転など自堕落な生活を送っていました。しかし、学生時代に近くの煉功点で煉功を始めたことを契機に、規律正しい生活を送れるようになりました。

になりました。学業や仕事においても、落ち着いた言動により良好な人間関係を築けるようになりました。

最も驚いたのは、幼少期からのタナトフォビア（死恐怖症）が完全に消えたことです。自分に必ず訪れる死への恐怖は、解決不可能だと思っていましたが、法輪功を学んでいくうちに、いつの間にかその恐怖心が消えていきました。

法輪功を学ぶ中で、性格や言動に大きな変化が現れました。以前は感情的に行動することが多く、大学の研究室の後輩に厳しく接したり、高校生時代には感情の起伏の激しさを家族や先生から指摘されたりしていました。しかし、法輪功を学んでからは、感情的な振る舞いを慎み、相手への思いやりを意識するようになりました。

その結果、家族からも「落ち着いたね」「本当に怒らなくなったね」と言われるよう

法輪功の中に人生の意義を見出すことができました。これこそが人々が本当に探し求めているものではないかと思わずにはられません。まだそれを知らない人々にも、いつかその機縁が訪れることを願っています。

■ 矢野さんご本人



豪州のエンジニア「法輪大法を修煉できることに感謝」

オーストラリアの大手IT企業でシステムエンジニアとして働くマイケル・モルナーさん（51歳）は、法輪大法の修煉を始めて26年になります。中秋節を迎え、法輪大法との出会いへの感謝を語りました。

片親家庭で育ったモルナーさんは、精神疾患を抱えた母親から虐待を受け、父親の愛情も知らずに成長しました。「社会規範や受け入れられる行動が何なのかわからず、友達はいても家庭環境は非常に不安定でした」と当時を振り返ります。

1999年1月に法輪大法の修煉を始めてから、人生は大きく変わりました。「もし大法に出会わなかったら、不遇な家庭環境の子供たちと同じように、薬物依存の悪循環に陥っていたでしょう。法輪大法のおかげで、現在の安定した結婚生活を築くことができました」と語ります。

2人の娘の父親として、モルナーさんは「真・善・忍」の原則を日常生活で実

践することに努めてきました。「社会では善悪の境界線が曖昧で、道徳の低下した考え方に合わない」と否定的に見られることもあります。他人に対して親切で思いやりがあり寛容であることは、今日の社会では一般的ではありません」と語ります。

家庭においては、「強い家族の絆を維持するには、利己的ではなく、家族全員を思いやるのが大切です。特に子育ては、自分自身を磨く継続的なプロセスだと実感しています。父親の不在という環境で育った私には、家族への責任の取り方がわからず、師の教えがなければ、家族とうまくいかなかったでしょう」と振り返ります。

26年の修煉を経て、モルナーさんは「法輪大法は混沌とした世の中で、私に穏やかな思考と静寂、感情的な平穏を与えてくれます。大法は落ち着いて流れて身を任せることができる場所なのです。師父の弟子であることに永遠に感謝します」と述べました。



■ マイケル・モルナーさんご本人

専門チームの調査結果、病気治療の有効率97.9%

1992年5月13日、法輪功（法輪大法とも呼ばれる）の創始者・李洪志氏は中国の長春市で心身を鍛える精神修養法を伝えた。

その「真・善・忍」の教えは人々の道徳の向上を導き、五式の動作は健康回復に顕著な効果があると口コミで広がった。そして大多数の法輪功学

習者（以下、学習者）は短期間で病気が良くなり、体が軽い状態を取り戻すことができた。

以下では、広東省の12,553人の学習者を対象として、医師や医学教授等の専門家で構成されたチームによって1998年9月に実施された調査結果を紹介する。

有効率が97.9%

調査対象は、男性が27.9%、女性が72.1%。50歳未満が48.4%、50歳以上は51.6%。一種類以上の疾病を患っていた学習者は10,475人で、2~3カ月から2~3年という期間を経て、全治および基本的に回復したのは77.5%だった。症状が好転した20.4%を加えると、健康回復の有効率は97.9%に至る。

7,170人の学習者が1年間に節約できた医療費は、合わせて1,265万元（約2.5億円、1998年の都市部労働者の平均賃金は約15万円）。89.4%の学習者は法輪大法を通じて精神状態が落ち着き、道徳が向上したという。徹底的な自我の抑制と向上も見られた。

多くの人が実感した不可思議な現象

一、驚異的な改善のスピードと効果

多くの学習者は、法輪功を学んで心身ともに改善した。しかもそのスピードと効果は驚異的であった。李先生の講義を聞いてから、あるいは自宅で法輪大法の書籍を読んでから3~5日以内に病気の症状が消え、全身が軽くなった者もいた。大多数は数カ月あるいは1~2年以内に病気の症状が完全に消えたか、好転した。調査対象の12,553人のうち、98%は数年以内に病気治療と健康保持の効果が現れた。一方で、2%の学習者が表面的に効果がないと回答した（ただしその中には、煉功を始める前にもともと元気だった学習者も含まれる）。

二、現代医学の奇跡

多くの学習者は、「薬土瓶」（常に薬を飲む人のこと）か、

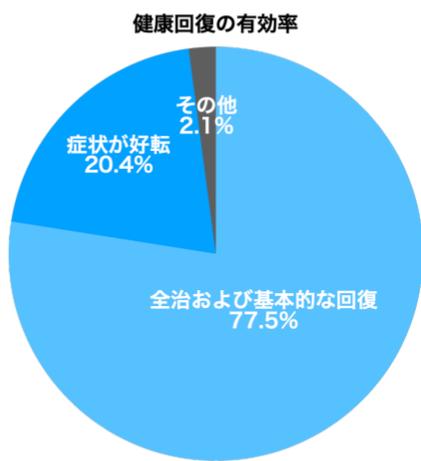
あるいは病院の常連だった。煉功を始めてから間もなく、薬を飲むことも注射もしなかったが、病気が悪化したり、再発したりせず、かえって身体状況はますます良くなった。

三、不治の病も回復

学習者の一部は医学的に頑固な病気、不治の病、あるいは診断できない病気を患っていた。しかし法輪功を通じて、奇跡的に回復した。

四、若返り

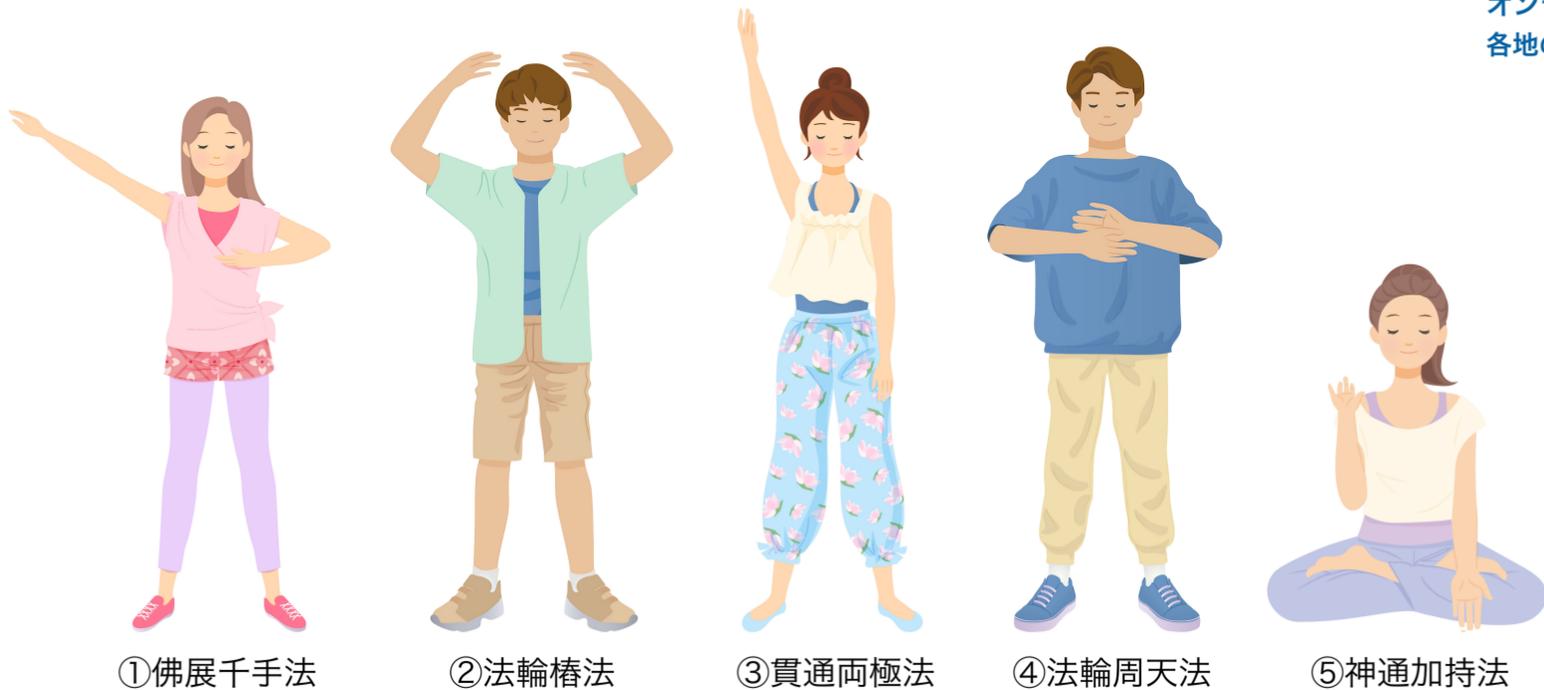
病症が消えただけでなく、体が若い方向へ戻る現象が現れた。年配の学習者の皺が少なくなり、髪の毛が黒くなり、顔色に赤みが差したり、皮膚に張りが出てつるつるになる現象が現れた。特に解釈できないのは、多くの年配女性に生理が戻ったことだった。



心と体を鍛える法輪功 5セットのエクササイズ



オンラインレッスン
各地の無料気功教室



『法輪功』（ファールンゴン）

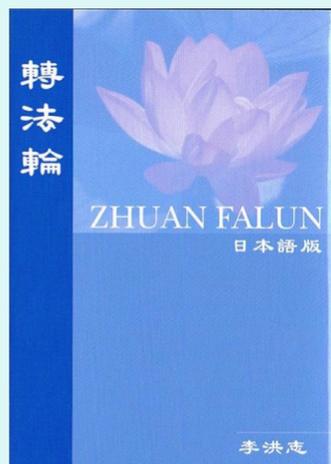
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



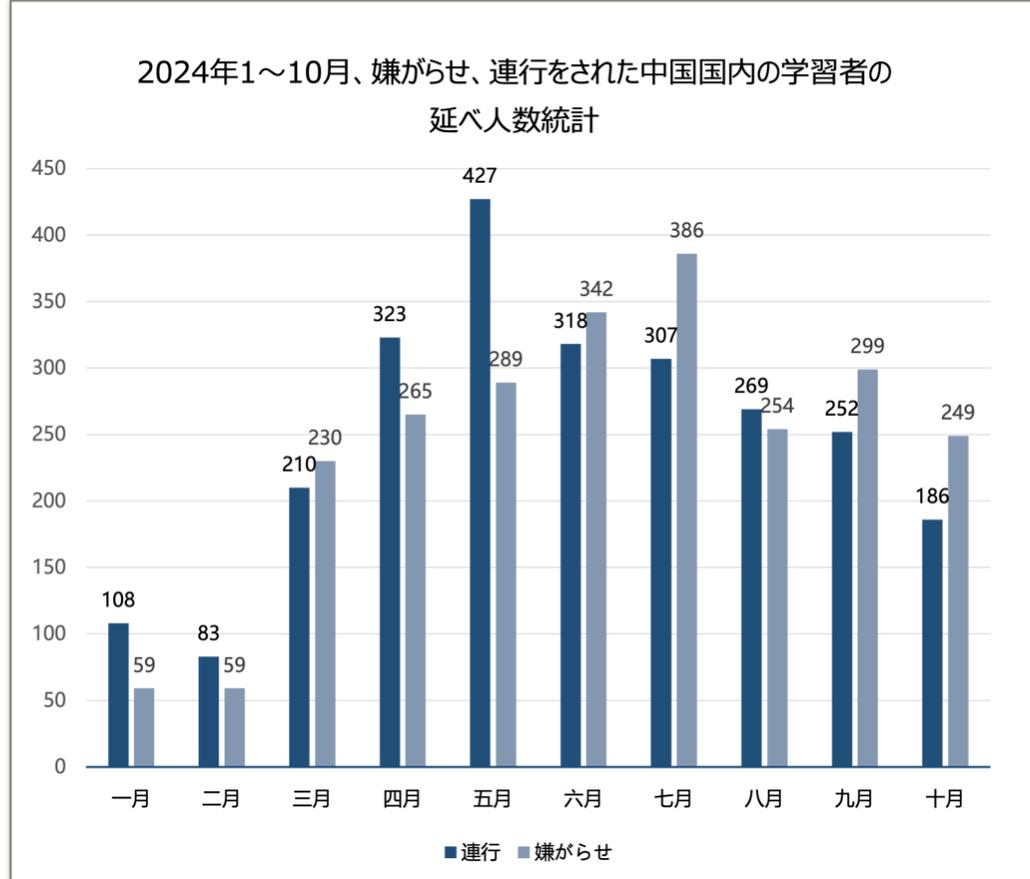
書籍を購入

10月、学習者435人への連行・嫌がらせが判明

明慧ネットの統計によると、2024年10月、少なくとも435人の法輪功学習者（以下、学習者）が不当に連行され、嫌がらせを受けたことが分かった（うち、186人が連行、249人が嫌がらせ）。また、60歳以上の学習者67人が含まれており、93人が家宅捜索を受け、4人が迫害を逃れるため放浪生活を余儀なくされた。そして12人が採血や写真撮影、指紋採取、声の録音をされた。警官は家宅捜索の際、現金11万7800元（約240万円）を押収した。さらに、9人の学習者が洗脳センターに送られた。

最も多く連行された地域は順に、四川省25人、吉林省21人、遼寧省20人、河北省17人、山東省17人。嫌がらせを受けた人数が多かった地域は、黒竜江省69人、吉林省47人、四川省22人、山東省19人であった。

今年1月から10月までに、中国共産党（以下、中共）の関係者は4915人の学習者を連行・嫌がらせをし（連行2483



人、嫌がらせ2432人）、646人に不当な判決を言い渡し、117人を致死させ、61人を洗脳センターに移送した。

楊愛勤さんの戸籍を取り消し

河南省開封市の学習者・楊愛勤さん（60歳女性）は、2015年7月に再び連行され、懲役6年6カ月の実刑判決を言い渡された。2022年1月14日出所し帰宅したが、いまだに無戸籍であ

り、身分証もない。市の西司門派出所は楊さんの戸籍を取り消し、身分証明書番号がすでに他人に使用されているとの理由で、再発給の手続きを拒否した。

中国社会でも、身分証がないとまったく社会活動ができない。携帯電話の使用、銀行カードの作成、電車チケットの購入、アルバイト先の身分証明、宿泊など、すべてに身分証が必要である。

楊さんは、以下のように語っている。

「私は1999年6月から法輪功の学習を始めました。病状はすべて消え、人生の意義も理解できました。法輪功から多くの恩恵を受けました。1999年7月20日、中共が法輪功への迫害を開始すると、私は何度も連行され、開封市拘置所と留置場に不当に拘禁されました。さらにお金も要求され、金額は約10万元（約210万円）に達し、家族にも大きな苦痛と悲しみをもたらしました。夫は何度も巻き添えになったことで体調をくずし、脳梗塞を患い、2016年8月に亡くなりました。80歳近い父親の臨終の際も、私は会うことができませんでした。娘が孫を出産しても、何の手助けもできませんでした」

黒竜江省の任長斌さん 監禁5日後に迫害で死亡

黒竜江省ジャムス市の学習者・任長斌さん（60歳）は今年7月25日、「真・善・忍」の信念を堅持していたために市向陽区裁判所から懲役3年の不当な判決を言い渡された。9月23日、任さんは双鴨

山刑務所に移送されて集中的に法輪功を放棄させる教育を受けることになったが、わずか5日後の9月28日に死亡した。

虐待の痕跡



■任長斌さん

9月28日午前8時、刑務所から電話を受けた任さんの姉は、任さんが急病により死亡したと告げられた。死因について問い合わせたところ、刑務所側は死因を明らかにせず、すでに遺体を葬儀場の冷凍室に送ったとだけ答えた。任さんの姉がすぐに他の家族と共に葬儀場に駆けつけたところ、任さんの遺体の頭部には縫合跡があり、目元と体には多くのあざ、そして足にも傷があることを確認した。

殴打され、虐待を受けていたことが明らかな遺体を前にして、刑務所の警官は、任さんが収容されたときの身体検査の指標は正常だったが、体が非常に弱かったため、刑務所では2人の受刑者によって看病されており、頭や体の怪我は入浴中の転倒によるものだと説明した。明らかに虚偽だった。

拘束前は健康だった

任さんを知る人なら知っているように、彼は法輪功を学習してとても健康だった。し

かし双鴨山刑務所に不当に収容されて僅か5日後に悲劇的な死を遂げ、親戚や友人は皆「信じられない、受け入れられない！」と口を揃えた。

1964年生まれで、ジャムス市公農ガラス工場の元従業員であった任さんは、法輪功を学んで「真・善・忍」の教えに従い、心身ともに大きな変化を遂げた。職場や隣人の中では最も誠実で信頼できる優しい人だと認識されていた。任さんが不当に拘束された後、同僚や隣人は署名や捺印を行い、当局が早急に任さんを家に帰すよう求めた。

死亡に至った経緯

前進公安支局は、任さんに対し「邪教組織を利用して法律の執行を妨害した」という名目で不当に立件した（しかし邪教として中国政府から指定された組織に法輪功は含まれていない）。向陽区検察庁は事実関係が不明確で証拠も不十分な状況で任さんを起訴した。そして、向陽区裁判所は任さんが何の違法行為も

行っていないことを知りながら裁判で不当な判決を宣告した。この一連の過程は、完全に中国の司法による違法行為であり犯罪であった。任長斌さんが、どのように邪教組織を利用したかの証明は一切なく、どのように法律の執行を妨げ社会に危害をもたらしたかの指摘もなかった。

公安、検察、裁判所が共謀して故意に冤罪を作り出した結果、任長斌さんは双鴨山刑務所に移送された。不当な判決を受けた男性の学習者は通常、まず双鴨山刑務所に収容されて罪を告白させられ、「懺悔書」に署名するなどの処置を受けさせられる。双鴨山刑務所は非常に残酷で、任さんは収監されてわずか5日後に迫害されて亡くなった。

心優しい人々をお願いします。中国で起きているこのような悲劇に注目し、中共から迫害を受けている学習者の境遇に関心を持ち、迫害を早期に終わらせるためにお力をお貸し下さい。

カナダ連邦下院議員 法輪功への迫害停止を要請

カナダの連邦下院議員は10月30日、政府に請願書を提出し、中国共産党（以下、中共）による法輪功学習者（以下、学習者）への組織的な迫害を停止させるための決議採択を要請した。そして臓器収奪に反対する法案の推進と、信仰を理由に中共に不当に拘束されているカナダ国民1名、カナダ居住者12名の親族の釈放に向けた働きかけを求めた。

不当な実刑判決

叢蘭英氏は、山東省在住の学習者（80歳）で、現在は山東済南女子刑務所に不当に拘束されている。叢蘭英氏の娘でモンリオール在住の叢新苗氏によると、1997年に法輪功を学び始めた叢蘭英氏は、法輪功の学習を続け、迫害について伝えたことで2023年2月、懲役4年の実刑判決を受けた。

何立志氏は、弟の何立忠氏のために声を上げている。弟の何立忠氏は甘肅省民勤県の農家で、携帯電話に法輪功関連のコンテンツがあることを理由に2024年4月に懲役7年の実刑判決を受けた。

連邦下院議員の支援

カナダ保守党の連邦下院議員スコット・リード氏は「我々は、臓器収奪を停止させるための法的措置をカナダが講じることと、法輪功に対する迫害の終結を公に要求することを呼びかける」と語った。

キャシー・ワガントール下院議員は、トロント在住の張天嘯氏の妹である張雲鶴氏のケースを取り上げ、2002年の青島市での逮捕以来、22年間消息不明となっている状況を説明した。

マーク・ドルトン下院議員は、オタワ在住の劉之源氏の父親・劉舟波氏の事例を取り上



■ガーネット・ジュニス下院議員（後列左端）、トム・クミエック下院議員、ラリー・ブロック下院議員、ジェレミー・パツァー下院議員、ブラッド・ヴィス下院議員、グレッグ・マクリーン下院議員（後列左から3番目から8番目）、マーク・ドルトン下院議員（後列右から2番目）と、学習者・何立志氏（右端）、叢新苗氏（右から2番目）、張天嘯氏（右から5番目）。国会で撮影（10月30日）

げ、2021年に2年間拘留された状況を説明した。

ジェレミー・パツァー下院議員は、カルガリー在住の劉素婷氏の母親・李詠梅氏のケースを紹介。李氏

は、2014年の最初の逮捕以降、拷問や強制労働などの非人道的な扱いを受けていると報告した。

タコ・ヴァン・ポプタ下院議員は、バンクーバー在

住の張氏（アリス・チャン）の母親である唐華鋒氏について言及。唐氏は2021年、法輪功の資料を配布したことで実刑判決を受け、刑務所に監禁されている。

日本の学習者 中共に不当に拘束された親族の解放を

元中国人外科医で英国在住のエンバー・トフティ氏とSMGネットワーク代表の丸山治章氏、日本の学習者は10月12日に中国大使館前で忠告書を読み上げ、中国で不当に拘束されている学習者の親族の釈放を要求した。

学習者の釈放を

丸山治章氏は読み上げた忠告書で、学習者への迫害の即時停止を要求した。また、鐘芳瓊氏らの無条件釈放を求めた。またエンバー・トフティ氏は「良心から発する声明」を読み上げた。

埼玉県の学習者・張述慧氏は、中国で拘束されている叔母の学習者・鐘芳瓊氏を釈放

するよう求めた。張氏の叔母は2024年6月27日に身柄を拘束された。7月には法的証拠もないまま留置場に拘禁され、家族との面会も許されていない。張氏は「成都留置場における叔母の不当な拘禁を停止し、叔母を釈放することを強く要求します」と述べた。

横浜市の学習者・劉希月氏は「遼寧省公安局は権力を乱用し、法律に違反しました。搜索令状もなく妹の劉聡の家を家宅搜索し、連行しました。妹は現在、遼寧省葫蘆島市留置場に拘留されており、3カ月が経過しています。妹の劉聡を直ちに釈放してください」と述べた。

東京の学習者・張一文氏は、不当に拘禁されている母（陝西省の学習者・61歳の王乖彦氏）を釈放するよう要求した。2024年4月11日、長さんの母親は留置場に拘禁され、家族との面会も許されていない。9月25日に裁判が金台区裁判所で開廷されたが、証拠不十分で判決は下されなかった。張氏は、母親と拘禁されているすべての学習者を釈放するよう要求した。

日本で働く学習者のゴン金均氏は11月8日、東京の衆議院議員会館前で中共に不当に拘束されている母親・姚佳秀（よう・かしゅう）さんの救出を求めた。姚佳秀さんは1999年に法輪功の無実を訴えるために北京へと赴いたが、その後、何度も不当に拘束さ

れ、拷問や虐待を受けた。2001年には懲役3年を宣告され、2006年と2007年に再び拘束され、精神病院に送られて詳細不明の薬物を強制投与された。その後、何度も住居を追われることになった。9月20日に再び拘束され、四川省西昌市へ移送された。拘留期間中、家族との面会は許可されなかった。

臓器を強制摘出した実体験

同日午後、エンバー・トフティ氏は東京中野区で行われた「他人事ではない臓器収奪」で講演し、中国で生きたままの受刑者から臓器を強制摘出した実体験を語った。

学習者の劉希月氏は講演会で発言し、中国で不当に拘禁されている妹の劉聡氏の救出を訴えた。「妹は不当な裁判で4年間拘禁された後、釈放時に血液検査を受けさせられました。臓器狩りの標的にされるのではないかととても心配です」と語り、より多くの日本人に学習者が受けている迫害を知ってほしいと願っている。



■中国大使館前で忠告書を読み上げる丸山治章氏（左二）、エンバー・トフティ氏（中央）、張述慧氏と劉希月氏

济公 羅漢の生まれ変わり

羅漢の生まれ変わり

济公は、もともと姓は李、名は修元とされています。宋の時代の天台山の出身で、杭州西湖の靈隠寺で剃髪して僧侶となり、「道济」という法名を授かりました。しばしば狂気を装い、癡狂（狂気）の状態の人々を救済していたため、「济癡」という異名を持つことになりました。しかし

彼の狂気はただの見せかけで、伝説では佛法無限の力を持ち、困っている人々を救済したため、「济公活佛」という尊称を得ました。

18歳の時に両親を亡くし、3年間の喪に服した後、西湖の靈隠寺で剃髪して僧侶となりました。住持の遠瞻堂は、彼が羅漢の生まれ変わりであると知り、弟子として迎えて「道济」という

法名を授けました。南宋の開禧2年（西暦1206年）、济公は座禅のまま入寂し、以下の詩偈を残しました。

「六十年来狼籍、東壁打倒西壁、于今收拾归来、依旧天青水碧」（六十年来の流浪で、東壁から西壁に移るように、今帰ってきて見ると、あい変わらず天青く、水碧し）。

古井戸から木材

济公は最初、西湖の靈隠寺で火を起こす僧侶として働いていました。その後、長老の啓発によって霊性が目覚めて頓悟（直ちに悟りを開くこと）しましたが、他人に見破られることを恐れて狂気を装い、人々を混乱させました。浄慈寺に移ってからは、経籍を写す「書記」として働きました。

妙崧禅師が朝廷の命令を受けて浄慈寺の第二十九代住持を務めることとなり、書記だった济公に募金の公告を草稿させました。济公は次のように公告を書き上げました。「下求众姓，盖思感动人心；上叩九天，直欲叫通天耳」（下には衆生に求め、心を感動させることを願い；上には九層の天に拝み、天耳に通じることを願う）という妙句がありました。

また、妙崧長老から寺院の再建に必要な木材を四川省からどう手配するかの相

談を受けた济公は、大いに酔い、三日間眠り続けた後、目覚めてこう叫びました。「木材が到着した！木材が到着した！」。長老が「木材はどこにあるのか？」と尋ねると、济公は「木材は銭塘江から運ばれて、寺の醒心井に届きました。井戸の口に木枠を作り、滑車を装着して、一本ずつ引き上げればいいのです」と答えました。僧侶たちは滑車を使って、木材を70本も引き上げました。

古跡となった井戸

それ以来、醒心井は「神運井」とも呼ばれるようになり、「運木古井」とも称されました。井戸の上には亭子（あずまや）が建てられ、最後の一本の木材は井戸の底に残されました。人々は蠟燭を灯し、それを長い紐で井戸に下ろして照らして観察することができました。これは、浄慈寺の最も魅力的な「古跡」の一つとなりました。



「男は左、女は右」という中国の伝統文化

中国の民間には、「男は左、女は右」という言い方があります。この言葉の由来は何でしょうか？伝説によれば、中華民族の始祖・盤古（ばんこ）が死んだ後、盤古の体の各部が変化して、世界を形作る諸物となりました。一部は太陽、月、星となり、一部は大地、山、河川、海、というように万物の生命となったのです。

『五運曆年記』によると、中華民族の太陽と月の二神は、盤古の両目から変化したといいます。太陽の神は盤古の左目、月の神は右目から変化したとされており、これが「男は左、女は右」の由来となりました。

古代人の哲学観

また「男は左、女は右」は、古代人の哲学観と深い関係があります。伝統文化の概念によれば、宇宙におけるすべての事物を貫く二つの対立があり、それが陰と陽です。古代人は大、長、上、左を陽

とし、小、短、下、右を陰と分類しました。陽は剛強であり、陰は柔弱です。男子の剛強は陽に属し、女子の柔軟は陰に属します。

実は「男は左、女は右」の言い方は、道家の陰陽説からも来ています。陰陽のうち、日の当たる面は陽、反対側が陰。陰陽学説では、自然界の物事が陰と陽の互いに対立する面を持ちながらも、同時に互いに統一性もあります。陰陽の対立、統一の運動は自然界の全ての物、出来事の発生、発展、変化及び消滅の根本的な原因です。

『素問：陰陽応象大論』には「陰陽とは、天地の道、万物の綱紀（規律）、変化の元、生殺の根本」と書かれています。

陰と陽は、互いに対立する二つの事物を表すことができ、一つの事物の内部にあって互いに対立する二つの側面の分析に用いることもできます。一般的に、激しい運動、

外向的、上昇、温熱、明るい等は全て陽に属し、静止、内向的、下降、寒冷、暗いなどは全て陰に属します。天地にたとえると、天の気の軽く清らかさが陽、地の気の重く濁っているのが陰であり、水と火にたとえると、水の属性は寒と潤いの下降が陰、火の属性は熱と炎の向上が陽に属します。

陰陽五行

陰陽学では「木、火、土、金、水」の五行は陰陽の基本の変化規律です。五行は相生相克であり、絶えず運動し変化し続けます。

周敦頤氏は『太極図説』で次のように述べています。「無極から太極、太極の動から陽が生じ、動の極から静が生じ、静から陰、静の極から動が生じる。静と動は互いにその根（こん）となる。陰陽を分立し、両儀が生まれた。太極から両儀が生まれ、（陰陽）二気の交感で万物が生まれた。万物が生き生きと無限

に変化する」。これは古代の易学家の陰陽に対する最も完全な論述です。「男は左、女

は右」の概念も伝統文化の一つ、陰陽の表現です。



写真特集



- ① 10月25日早朝にシドニー中心部のマーティンプレイスで行われた集団煉功
- ② 10月12日から14日まで、モルドバ共和国の首都キシナウで法輪功を紹介
- ③ 第1回メキシコ明慧サマーキャンプにメキシコ各地から参加した子ども学習者
- ④ 10月14日、広島市の平和公園で行われた水辺のコンサートで法輪功を学んだ体験について語る学習者
- ⑤ スtockホルムの国会議事堂の隣にあるコイン広場で法輪功への迫害について資料を読む人々
- ⑥ 10月5日、サンタクララで開催された「チャンピオンパレード」で行進する法輪功チーム
- ⑦ 10月 ギリシャの首都アテネの中国総領事館前で迫害に反対する集会を開催

『明慧インターナショナル・30周年特別号』



法輪功が1992年に伝えだされてから、世界130カ国、1億人に愛好されている現在までの状況を紹介。

また、迫害制止を求めた勇気ある行動、世界各地からの声援などを掲載。

PDFファイルの無料ダウンロード



明慧ダイジェスト発行元

明慧（ミンフイ）ネット
<https://jp.minghui.org/>
 メール：editor@minghui.jp

明慧ネット日本語版は、2001年7月に開設しました。

法輪功について紹介、世界各国の活動、学んだ人たちの体験談などを掲載しています。

また、中国における迫害の状況を報告しています。